

常盤新聞

定部金貳錢 廣五號十二
 一ヶ月卅錢 告字詰一行
 郵税五厘 料五字一行
 日休日曜大祭
 日祝日ノ翌
 福島縣石城郡平町長橋町三五
 發行所 常盤毎日新聞社
 電話六三〇番

月刊 發行兼編輯人 川崎文治 本社下同番地 (電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所

刊夕日一十月二十

思想を觀る用意

老年期となれば概ね着實となり、前後左右を顧慮する所多きを以て、新思想は餘り生ぜぬ、在來の惰性に驅られ夫を維持するが多い、併し圓熟する所あるを以て青年には好まれぬが、識者を動かす力はある。各方面の思想にして永續する勢力あり生命あるものは、青年期の産物でなく、壯年より初老期に屬するが多い。叙上の點に着眼して種々の

學說、主義思想に對するものが、我等の常として居る所批判なしに徒らに受け入れぬ、隨つて流行を逐ふことを快しとせぬ。我等は否應なしに日本に生れて日本に住む以上、先づ日本人としての立場に於て考へる、之は國民として順當である。此國民的立場よりすれば無批判に諸外國に發生したる思想を其儘翻譯して、即時之を適用することに躊躇する兎にも角にも先づ批判せねばならぬ、如令、日を逐ひ月を累ね批判なしに只管新らしきをのみ叫ぶを能とするは奇怪なる態度でなからうか。而かも日本に思想の

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡文庫

電話六三〇番 (申込次第規則書進呈)

種々書籍 發行所 川崎文庫 電話四〇番

看護婦派遣の求めに應ず

平町南町 看護婦會 電話三〇七番

平町紺屋町(縣社通り) 美味評判 イウキ食堂 オの部電話四六〇番

七五三御祝の御用意品

毛糸マント
 ランジャオーバト
 洋服各種
 モヘヤマント
 帽子
 白毛襟巻子
 チヨソツキ

種々入荷致しましたから御用命を.....

にツルヤ 電話百四十番

御料理仕出し

うどん そば
 天ぷら
 鰻蒲焼

ままつ屋

内臓外科 骨關節外科 整形外科 婦人科

専門 藤本 順

院長 木村寅次郎

平町新川町 木村醫院 電話一六四番

方子様 冬の御用意

幸福印 提供の特價通學服

極上小倉製半ズボン上下
 一二年用.....一圓九十錢
 三四年用.....二圓十錢
 四五年用.....二圓三十錢
 五六年用.....二圓五十錢
 高等科用.....三圓十錢
 中學生用.....三圓五十錢

モリタヤ洋品店 平町五丁目(電話三五三番)

木村外科醫院

花柳病科 専門

入院自炊の使あり

平町五丁目橋際 電話三〇九番

外科 専門

上田外科醫院

入院應需

平町南町 電話一二九番

食パン一斤十六錢
 レモン汁
 ミツル
 プラム
 ジヤム
 松本
 ツズマキ

五錢

目丁四町平 ヤトモツマ 番四一二話電

セメント 壁用材料 コールタール ペンキ塗料 板ガラス

警城セメント株式會社 代理店 西村屋藥舖 平町二丁目(電話三)

盛美酒 眺月

酒 銘 乃 乃 乃

平四丁目中驛通 電話二〇七番

三益玉炭のお奨め

三井物産會社が多年研究の結果專賣特許ヲ得タ最モ文化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス

阿部石炭商店 平町前(電話二二七番)

御大禮記念セイコー抽籤特賣

賞品總額拾壹萬參千圓

一等賞 壹百圓 (債券) 五十本
 二等賞 五十圓 同 五十本
 三等賞 十圓 同 五百本
 四等賞 五圓 同 五百本
 五等賞 一圓 同 五百本

特約店 大谷時計病院 平町三丁目(電話一九番)

愈々合併が成立して 平銀行委曲を發表す

成り行きを刮目された 比率問題は五對二と決定

平銀行と常磐銀行との合併に關しては屢報の通りであるが合併に至る迄の経過及び十日午後六時を以て成立したる合併契約に就き平銀行では十一日午前八時頭取代理高岡取締役から左の通り發表した向は二十六日の總會に先立ち來十九日の休業満期以前に戸をかけたい豫定である。

本行は地方財界の現状に鑑み預金者の利益擁護と財界の安定とを期すべく銀行合同の必要を痛感したので十一月十七日山崎頭取、高岡取締役の兩重役は豫て相談中であつた常磐銀行と合併交渉の件で開始した所先方に於ても本行の意を諒し直に合併の旨承諾したので翌十八日日本行重役會並に相談役會を招集して水戸市に於ける交渉経過を報告し承認を得ると同時に合併準備のため十九日より一時休業することを決議し同日午後七時半平町に於ける預金者二百餘名の來行を願つて諒解を求めたのであります。

一方常磐銀行では十九日より本行の内容調査のため三宅支配人外二名來平し直に本行に對する内容の調査を開始したのであるが其の間日數十二日を要して去る十一月三十日大体の調査を終

了したのであります。其後(去る四日)常磐銀行からの電報に接し本行から山崎頭取、高岡、木村取締役新田目常任監査役の四名重役は同日午後一時二十一分で上水直に常磐銀行樓上に於て合併に關する具體的交渉を開始し爾後五日間に亘つて嚴肅に折衝を重ねたのであります。殊に去る七日の午前九時より同日午後九時まで十二時間の長時間に亘り比率問題について猛烈なる論戰を續けた結果漸く兩行との間に一致點を見出し得たので本行重役一行は合併案件を携へ八日夜歸平し翌九日午後一時より該案を中心として本行重役會並に相談役會を開き慎重審議を重ねた結果漸く協議一決したので木村、新田目の兩重役は去る十日上水に先方重役と會見の上左記の如き假契約書を作成するに至つたのであります。該假契約書は來る二十六日の臨時株主總會に提案して承認を求め其の結果完全な合併が成立する次第であります。尚比率引上げの爲め山崎頭取は債權の回狀保證の意味を以て其の私有財産たる田地二十餘町歩を提供しこれに對し他重役は連帶責任を以て保證すると言ふことに決定したのであります。

以上合併に至る迄の経過大要を申し上げ茲に皆様の御諒解を偏に御願ひする次第であります。

合併假契約書

株式會社常磐銀行(以下甲と稱す)と株式會社平銀行(以下乙と稱す)とは其基礎を鞏固にし地方金融改善の爲め茲に合併の利益なるを認め兩銀行代表者は重役會の決議に基き左の通約定す。

第一條、甲乙兩銀行を合併し乙は解散し甲は存続す而して乙の本支店は甲の支店とし又乙の出張所は其中四倉、浪江、小高の三ヶ所を甲の出張所として存置し、新山、富岡の三ヶ所を廢止す。

第二條、甲は合併に依り資本金六十萬圓を増加し此資本一萬二千圓を發行し乙より受継ぎたる株主名簿により乙の五株に對し甲の二株の割合を以て同等拂込の株式と引換へ交付するものとす。

但し割當交付につき生じたる端數株式は商法の規定により處分するものとす。

第三條、乙は其の昭和三年下半年損益金の中前期繰越金並に有價證券賣却益金を控除したる爾餘の營業損益計算が純益金のときは無配當とし純益金のときは其處分案につき甲と協議の上定むるものとす。

第四條、甲乙共に合併に關し其株主總會の決議を経たる上は乙は休業中の本支店を閉店し全く平常の營業に復するものとす。之に要する營業資金全部は甲より無制限に貸金全部出張所の業務を退て合併實行迄其所屬本支店に於て併せ行ふ。

第五條、甲乙共に合併に關し其株主總會の決議並

に主務省の認可を経たる上は別に合併實行の時期を定め其期日に於て甲は乙の債權債務一切を繼承するものとす。

第六條、前條の債權債務の引繼は昭和三年六月三十日現在の貸借對照表、財産目録を基礎とし同日以後の財産の増減は別に計算書を以て明確にし不當の増減支出等ある場合は乙の役員個人連帶して其責に任ずるものとす。

又乙は右の貸借對照表並に財産目録は總て正確なることを保證し萬一該表以外の負債存在すること後日に至り發見せられたるときは乙の役員個人連帶して其責に任ずるものとす。

第七條、本約定後合併實行の時期迄乙は重要な事項に付ては甲に協議の上之を行ひ損益の計算及び處分に關しては甲の承認を経るものとす。

第八條、此假契約書は双方株主總會により別に改めて契約することなく直に本契約書として其効力を發生するものとす。

前項の株主總會は双方共來る昭和三年十二月二十六日に開催するものとす。右契約の證として本書二通を作成し各一通を所持するものなり。

株式會社常磐銀行 取締役會長 江 幡 新
株式會社平銀行 取締役頭取 山崎與三郎

仍て本覺書二通を複製し各一通を所持す。

株式會社常磐銀行 取締役會長 江 幡 新
株式會社平銀行 取締役頭取 山崎與三郎

子供をだます 最近

平町地方へ監甲と稱する餉賣が入込み賣切れたから餉は明日やると稱し僅か一錢二錢といふ金を頭是なき子供より詐取し歩いてゐるといふ事を平署に投書があつたので目下捜索中だが歳末が近づくに連れかうした犯罪者が漸く現れて來たので平署では徹底的取締をなし不良の一掃に努力すると

爆裂團公判

急遽きのふ開廷

警陽の天地を驚かした不良組爆裂團の擧は去る五日首領と目される警陽炭礦事務員大串某外五六名の檢擧で一先づ梟をつけたが係の三等檢事は俄に公判開廷を申請し十日午後一時より平區裁判所に千葉裁判長係三笠檢事立會被告大串の辯護士永野柳氏列席の上開廷

喧嘩の家出 去る

八日夜十一時頃二十歳の女が平驛構内を徘徊してゐるのを平署員が発見取調べし處好間村小田炭礦坑夫佐藤義吉内縁の妻栗原とめ(二七)とて同夜六時に夫婦喧嘩をした揚句亭主への面當に轢死せんとした旨申立てたので平署で保護を加へてゐるが他に深い事情が潜在してゐるらしいと

郷友會の建物を 無償で交附する

福島縣から在仙 石城郷友會に對して

仙臺市片平町石城郷友會の土地建物を今度同郷友會が福島縣廳から無償で交付されることとなつた、この敷地は數十年前石城郡出身の軍人のため石城郡が千八百圓で買ひ受け俱樂部を建設したものであるがその坪數六百餘坪今では四萬圓の價があり郡制廢止に依つて福島縣の所屬に歸し歩兵廿九聯隊が若松に移轉した關係上一時縣では其土地

地だけを賣り拂ふ考へもあつたが元々石城郡の財産なれば石城郡の縁故

關係者に 交附すべきが至當であるといふ輿論が起きて一方石城郡郷友會では會を財團法人に改め今度いよいよ福島縣廳から交附されることになつたものである、同郷友會では交附を受けた後の

處分方法 について

歳末も至つて平氣に 涼しい顔の官吏連中

暖爐圍む油の時間を 賞與話しに花がさく

も種々協議するところあつたが結局六百坪の半分三百坪だけを他に賣却し、その

銀行の休業だやれ御大禮だといつてる裡に今年もいよいよ師走の三分の一を經過した残り少なくなつたカレンダーを繰る指頭にも歳末にのみ感ずる一種の哀愁は華々と迫つてきてこの暮をどうして越さうかといつた様な事が年に一度の苦勞の種子として各人の

脳裡に 芽ばは初めた永い間の不況續きで來るべき年の瀬こそ例年以上深刻なものがある事蓋し既定の事實と見るべきであるがこれとは全然行方を異にしそうした苦難から超越して如何にも涼しい顔をしてゐる官吏といふ特權階級に

中味を 樂しみ乍ら

つてはボーナス袋の寧ろ年末の切迫するのを待遠しがつてあるとは些か皮肉な對照ではある去年ボーナスの筆頭、稅務署の最高三十三割で勿論炭礦の好況時代において下つ端の日給雇員あたりでさへ二十ヶ月分も貰つて金の處分にあたまを悩ました當時のそれはおよびもないが今どきとしては先づ以て他をして

羨望せ しむるに充分なるものがある今年はお朽その他整理直後の年であるだけに大体二ヶ月分内外と豫想されてゐる